

生涯学習だより



人心…「人きたえあう(ふゆ)…北国に生きる力」

～かみしほろの健やかな育ち～

年間テーマ 「意外と知らない? みんなの学び」

「ボランティア」が活発に活躍する上士幌町

「ボランティアと生涯学習」。

一見、あまり関係がなさそうですが、実はとても関連性が高いキーワードです。例えば、ボランティア活動そのものが、自己実現につながるような学びとなることや、ボランティア活動を行うために必要な知識や技術を学んでいくというのも生涯学習であって、学習の成果を実践として活かす場面がボランティア活動の機会だという場合もあります。このようにボランティアと生涯学習は、つながりがあってこそ大きい意味を持つ活動となることが多いです。

そもそも「ボランティア」とはなんでしょう？

■自分の意志で行うもの

ボランティア活動は誰かに強制されたり、義務で行なったりするのではなく、自分の考えで参加したり、取り組むことです。だからこそ、多様な問題に柔軟に取り組みむことができ、人の心に働きかける力を持っています。

■自分のために行うものではない

ボランティア活動は他の人や社会のために取り組むことで、お金

をもらうことや、自分だけが満足することを目的としていません。

活動を通して、結果的に活動する自分自身も様々なものを得ることができま

■さまざまなことが得られる

たとえば、活動を通して、感動や喜び、充実感、達成感などが得られたり、活動そのものが楽しみになることがあります。また、ボランティア活動を通じて様々な体験をしたり、人や社会、自分について新しく気づくことがあったり、知識や技術を学ぶことができます。様々な人たちと知り合ったり、協力し合うことで人とのつながりを広げることが出来ます。

ボランティア活動はこのように様々な要素をもった活動です。町内でもたくさんの方が「誰かのために」色んな活動を行なっています。わたし達が住む上士幌町のために、できることから始めていければ素敵ですね。

(参考) 全国ボランティア・市民活動振興センター

<https://www.zcwcv.net/>

●お詫びと訂正

本誌、9月号に掲載しております記事、左記につきまして内容に誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

生涯学習だより夏号2ページ目「紹介No.4 かみしほろ5000本のひまわりの会」の団体情報。
①団体名「かみしほろ5000本ひまわりの会」は、正しくは「かみしほろ5000本のひまわりの会」です。

②「代表 長尾 正子」は、正しくは「事務局長・長尾 正子」です。

③中段14行目「子どものいる施設へ収穫したじゃがいもを寄付しています。」は、正しくは、「子どものいる施設へ町内外の農家さんから寄付していただいたじゃがいもを寄付しています。」です。

以上のように訂正し、ここに謹んでお詫び申し上げます。

生涯学習情報委員会

意外と知らない？みんなの学び

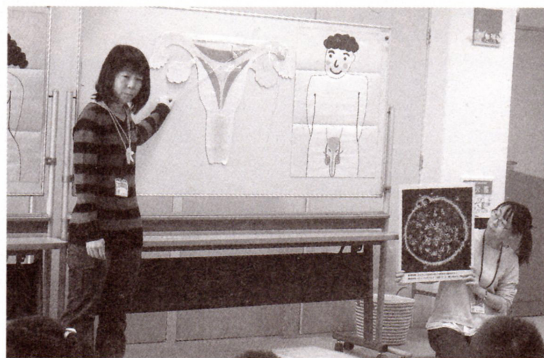
紹介 No.7

上士幌町生教育支援チーム

※取材時、インタビューに対応していただいたメンバーは五十嵐さん、林さん、佐藤さん、木村さんの4名です。

団体情報 ※お問い合わせは役場保健福祉課まで！

活動日 通年
活動人数 11名（活動日により実働は4、5名）
活動場所 ふれあいプラザ等



しっかりと知識を持ってほしいと話す
団体メンバーの五十嵐さんと林さん

「あかちゃんってどこからくるの？」
その答えは。
杉森委員・会を立ち上げたきっかけはなんですか？
木村さん 10年ほど前に町で取り組み始めた生教育事業で、保護者が中心となって進めてはどうかということになり、声をかけられたのが始まりです。何もわからないで引き受けましたが、子どもの年齢が近いママ同士が集まって勉強会を開きながら、わが子についても相談できる場となっていて、楽しく始められたんです。
杉森委員 どのような活動を行なっているのですか？
林さん ふれあいプラザで年長児親子に「いのちの教室」、学校では小学3年生に「誕生学」、小学五年生に「二次性徴」、中学3年生に「妊娠・出産・育児や性感染症」について、生命のしくみや尊



親子でふれあう勉強の時間も。

さを伝えています。事前に一度集まって、役割分担など準備をしてから当日に臨んでいます。
杉森委員 続けられている理由は何でしょうか？
佐藤さん 情報が錯そうするこの時代に、子どもには正しい知識を持つてほしい。
五十嵐さん 年長さんが楽しそうに参加していて、笑顔が見られるのが嬉しい。
佐藤さん 小、中学生が書いてくれる感想を読むと、真剣に聴いてくれていたことがわかって、やつ

情報委員の所感

取材担当 杉森 恵子 委員

ある意味赤裸々な内容を、率直に、わかりやすく説明してくれるメンバーの方々に頭が下がります。親でもない先生でもない、知っている子のお母さんがこれから何かを話してくれる。子ども達のワクワクする気持ちもそれはそれは大きくなるのでは？

参加保護者からは、子どもへの伝え方を考える良いきっかけになったとの感想が多く、また「生まれた時のことを思い出して感動した」との声も。次はママ友やパパ友を誘って自らメンバーに加わってみてはいかがでしょう。

てよかったなとやりがいを感じる。
杉森委員 この先の展望としてはどのようなことがあげられますか？
木村さん 新しいメンバーを増やすことが現状の課題。新米パパママでも横のつながりができることから気持ちにゆとりが生まれます。まずは積極的に参加してほしいですね。

意外と知らない？みんなの学び

紹介 No.8

ぽんぽろ

スタッフ 齊藤さん、津守さん、新井さん、鎌田さん

団体情報 ※お問い合わせは教育委員会まで！

活動日 毎週水曜日 (13:30~17:00頃)

活動場所 11区西集会所、おっぱい山公園

対象 幼児~小学生 (在籍 115名)

スタッフ 4人 (その他お母さん方がサポート)



ぽんぽろメンバーの皆さん
(左から鎌田さん、津守さん、齊藤さん、新井さん)

楠委員長 会を立ち上げたきっかけはなんですか？

津守さん 自然と自由な空間の中で、子ども達が自分たちで考えて遊べる場所を作れたかったです。

楠委員長 活動の目的はなんですか？

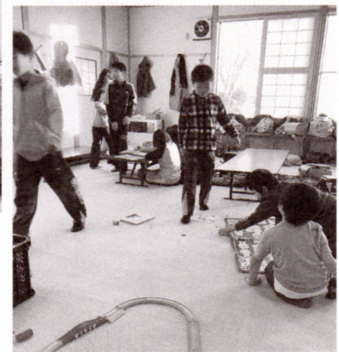
鎌田さん 子ども達が自分で考え、行動し、主体性や自主性を養う。小さな子から大きな子まで皆で遊ぶ嬉しさや、助け合う楽しさを知ってほしいという思いを持って活動を行っています。

楠委員長 どのような活動を行なっているのですか？

新井さん 基本的には自由！15時半からおやつの時間があります。おやつは地元産の食材をなるべく使うようにしています。

楠委員長 今後どんな活動をしていきたいですか？

齊藤さん 一年経って、子どもたちがぽんぽろを「自分の場所」と感じてもらっているのが伝わってきます。



基本は自由に遊びます。



読み聞かせやおやつ時間も



どんな年齢の子も、自分達で、友達と一緒に、遊びの世界を広げられる心が育ってくれる場になるよう頑張ります。

情報委員の所感

取材担当 楠 政幸 委員長

とても素敵な活動を「ボランティア」で行なっていた。会費はおやつ代と消耗品の実費分程度で百円。こういった活動を行なっていくことで町が活性化されていくと感じた。

現代失われつつある、人のつながりが素晴らしかった。また、自分たちで考え、行動し、大人も子どもも関係なく一人のひととして向き合っている姿が素晴らしく、皆楽しそうだった。

このような活動を町ぐるみでサポートしていく必要があると強く感じた。



夏にはスイカ割りも

意外と知らない？みんなの学び

紹介 No.9

かみしほろ結飯の会

代表 太田 康子さん

団体情報 ※お問い合わせは社会福祉協議会まで！

活動日 不定期

活動場所 ふれあいプラザ、農業技術研究センター等

所属人数 6人



代表の太田さん（右から2番目）とメンバーの方たち。

津守委員 団体が立ち上がったきっかけはなんですか？

太田さん 食事に対する関心や意識を高めることは、健康のためにとっても大切なことで、高齢者の食改善ボランティア講座を受講した方や、食に関心のある人が集まって、社会福祉協議会を通じて食に関する活動を行なっていました。そのメンバーが集まって、現在は「かみしほろ結飯の会」として自立し、活動を継続しています。

津守委員 団体の目的はなんですか？

荒井さん 町民の方がより健康に生活できるように、食事への関心を高めるお手伝いできればと思っています。

津守委員 どのような活動を行なっているのですか？



取材当日のベーコン作りの様子

太田さん 健康診断後の食に関する普及啓発活動、男性の料理教室、社会福祉協議会サロンのお弁当づくりや自己研修を行なっています。

津守委員 今後行なってみたいことはありますか？

廣瀬さん もっと多くの方に気軽に参加してほしいです。例えば、高齢の男性が一人暮らしになった場合に、自立して食事の準備ができるようお手伝いできればと思います。



サロンのお弁当作り・提供の様子

情報委員の所感

取材担当 津守 佑亮 委員

「男性の料理教室」にお邪魔してきました。当日はベーコン作りと豚汁とあと2品を作っていました。

参加された皆さんは終始楽しみなが、熱心に作業されていました。食事を作ることの大切さ、作ってくれる方の尊さを改めて実感させられました。